

関連項目：指導体制プラン①

## Q-Uアンケートを核に、全教職員で全校児童を育てる

### 目的

本校は全校児童157名（学年1クラス）の小規模校である。児童数が少なく毎年のクラス替えもないため、児童はお互いのことをよく知っていることから良好な友だち関係を築きやすく、教師の目も行き届きやすい。しかし、人間関係が固定化しがちなことから些細なことが原因で問題が生じたり、自分の思いや考えは何となく分かってくれているという安心感があるために、積極的に自己を表現したり働きかけたりする態度に欠ける面が見られる。

そこで、より積極的かつ細やかな児童理解のために、本校ではQ-Uアンケートの結果を年間を通して活用することになっている。

### 内容

#### ● Q-Uアンケートによる実態把握

年2回（5月・12月）全校児童を対象にQ-Uアンケートを実施し、児童・学級の実態を把握するようにした。各担任が集計したものをグラフ化し、それを校内研修の時間に全職員で分析して課題と対応を話し合った。2回の結果を比較・分析することで個々の児童の変容をより具体的・視覚的に把握する事ができ、普段の行動観察からでは特に問題のないように思える児童が「学級生活不満足群」に入っていたりするので、児童理解を深める上で大変有用であった。

アンケートで「要支援群」に位置する児童については全職員が情報を共有し、後日担任が個別に話を聞く機会を設けるなどして随時対応していった。

#### ● 毎月1回の生徒指導委員会での情報共有

毎月1回職員会の際に生徒指導委員会を全教職員が参加して開き、各学年で生じた生徒指導上の問題点などを報告し合うようにした。前もって各担任には右のような記録用紙に記入してもらい、それをもとに話し合いをし、記録を残すようにしている。

各クラスの現状や、配慮を要する児童などについての情報を交換し、きめ細かな対応ができるようにした。また、特別に支援を要する児童の特性や関わり方などについても話し合った。

全校的に対応が必要な事項に関してはできるだけその場で管理職も交えて相談・決定するようにした。

生徒指導委員会記録 [2011年11月10日]	
月	日
1年1組	学年及び担当 [ ]
2年1組	
3年1組	

10日の委員会まで、お出しください。

### 成果

このような細やかな対応を継続的に実施した結果、12月のQ-Uアンケートでは5月に比べて、6クラス中4クラスで「学級生活満足群」の向上が見られ、「要支援群」の児童の減少も見られた。

客観的に学級を分析できることで、日常とは異なる視点で子どもたちを見ることができ、個に応じた指導・支援につなげることができた。

本校のような規模の小さい学校では、こうしたデータを蓄積して次の担任に引き継ぎ、必要であれば前年度からの変容を分析するといったことも必要となってくると思われる。